

第17回日本緩和医療学会学術大会報告

The 17th Congress of the Japanese Society for Palliative Medicine

会長 松岡 順治 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 緩和医療学)

Junji Matsuoka (Department of Palliative Care and Cancer Survivorship, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences)

平成24年6月22, 23の両日, 神戸市神戸国際展示場他におきまして第17回日本緩和医療学会を開催し, 無事終了することができました。これもひとえに同窓の方々のご協力の賜物と, 心より御礼申し上げます。前日まで6月にはまれな台風の上陸, それも2つの台風が直撃で大雨という天候でありましたが, 当日はうのように青空が広がり, 7,000人近くの参加をいただくことができました。ひとえに皆様の日頃の行いの賜物と感謝しています。

総会のテーマは「ひろく ふかく たかく」でした。多くの先達が従来から築き上げて来た end of life care の演題にくわえ, 今大会特有のものとして①緩和医療の将来展望, ②サバイバーシップ, ③ソーシャルキャピタル, ④高齢者・認知症緩和医療, ⑤小児緩和医療等々の新たな概念を提示する機会をいただきました。

学会企画, 学会員企画, 多職種フォーラム, ガイドライン講座, 精神腫瘍学特集, 口腔ケアハンズオン等では企画の段階から岡山大学の誇る多くの講座のご協力を得ることができ, また, 実際の会議の中でも岡



山大学の精鋭のご参加をいただくことができました。老年医学会, 臨床腫瘍学会, がん治療学会, 乳がん学会, 厚生労働省, 文部科学省等の様々な分野からのご出席をいただき学会員との論議を深めて頂きました。プログラムの構成として, 同じカテゴリーのものを同一会場にまとめ, ポスターディスカッションに全員が参加いただけるように, セッションの終了時間を統一しました。利便性を考えランチは会場内で, 私ども岡山の誇るB級グルメをお楽しみ頂けるようにしました。

市民公開講座は演劇に引き続く詩の朗読, そして胃ろうのパネルディスカッションを開催しました。多職



平成24年8月受理
〒700-8558 岡山市北区鹿田町 2-5-1
電話: 086-235-6502 FAX: 086-235-6502
E-mail: jmatsu@md.okayama-u.ac.jp

種、多分野のかたがた、それもノービスからエキスパートまで全ての方々に充分満足いただくことができるよう考慮いたしました。それがいかに難しいかということを考えさせられた二日間でありました。

懇親会には森田学長のご参加をいただき、灘の名醸とともに神戸ジャズナイトという企画で日野皓正さんのジャズを楽しんで頂きました。



学会が成功したかどうかは多くの人が集まったかどうかではなく、その学会大会が明確なメッセージを示すことができたかどうか、なにかをかえることができたかどうかにかかっています。今大会のメッセージは、緩和医療をひろく、ふかく、たかくすることにより社会をよりよいものに変えていこうというものであります。緩和医療は医療の基本的な態度であり、人の営みの根源に関わるものであると思います。緩和医療で重視されるコミュニケーションは、多くの人のつながりを通じて社会を変えていく力があると考えます。

がん対策推進基本計画において、診断の時から緩和医療を行うという方針が示されました。基本的な緩和医療の考え方は、岡山大学病院のモットーである「あなたのそばに」という考え方に他なりません。

今回のポスターは有元利夫画伯のロンドを使用させて頂きました。患者さんを多職種の医療者が支える医療を具現化していると考えたからです。このような医療が理想であると考えています。医療は人々を幸せにするためにあり、われわれは社会をよくするためにある、このことを様々な議論を通じて認識して頂きました。医療は患者さんと家族の人生を変えることができると同時に、社会も変える力を有している。医療に従事される皆様におかれましては日常の診療を通じて社会を変えていく力を自覚し、自信をもってその力を発揮して頂くようお願いしてご報告とさせて頂きます。

